

富士山学習シリーズ ①
須走口 標高2,000mの草原と森林
宝永噴火から再生する森



須走口馬返し付近（標高1,340m）より

特定非営利活動法人 富士山の森を守るホシガラスの会

(2019.7 改定)

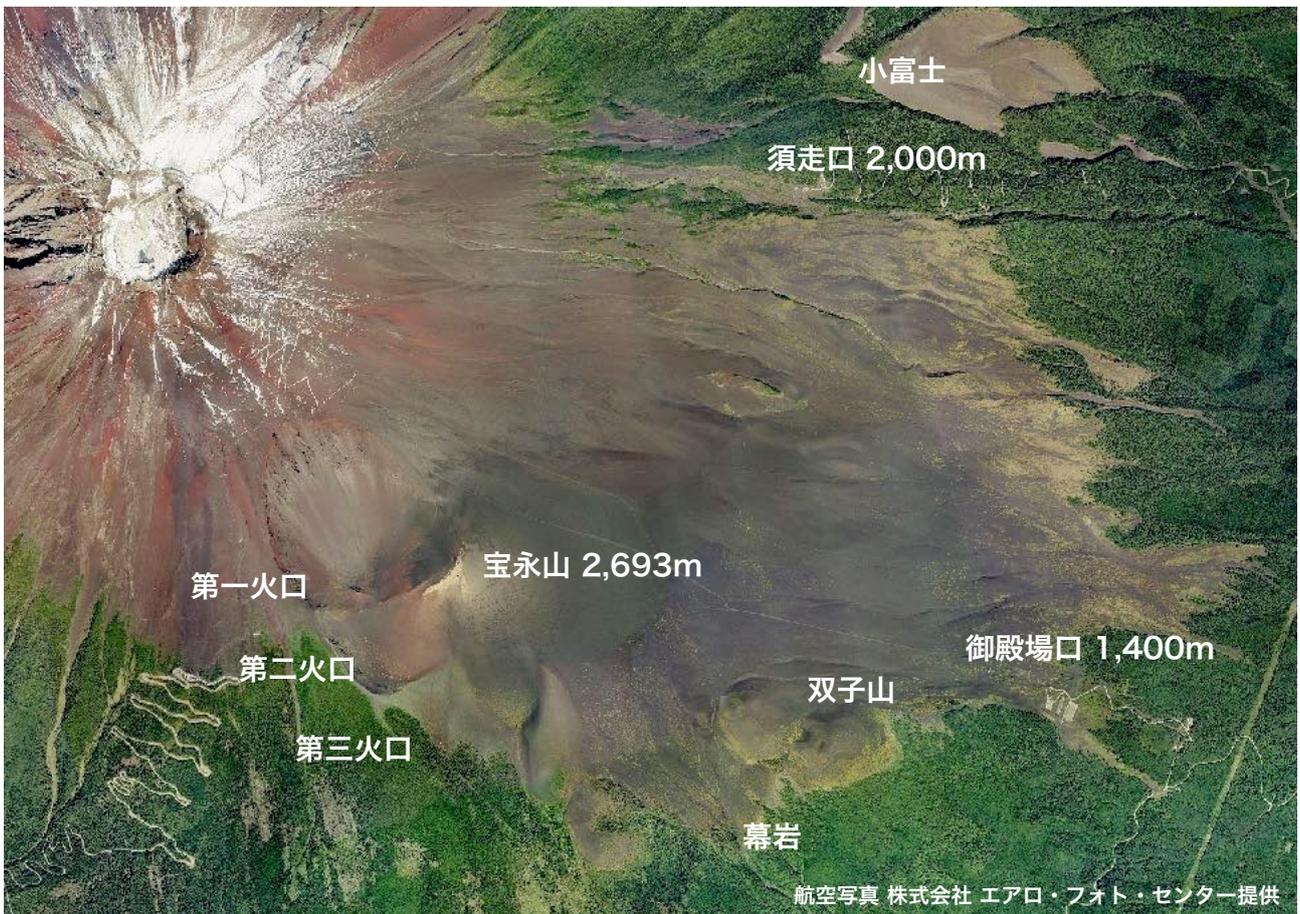


目次

宝永噴火で焼き尽くされた森	1
火山荒原から森への遷移	2
スコリア荒原の先駆植物	3
植物群落の形成	
草原と森林限界	4
陽樹林・ダケカンバとカラマツ	5
陰樹林・シラビソの森	6
陰樹林・コメツガの森	
小富士遊歩道で見られる草花	7
須走口～小富士周辺で見られる生きものたち	8

宝永噴火で焼き尽くされた森

西暦1707年の宝永噴火は富士山の噴火の中でも西暦864年の貞観の噴火と並ぶ大きな噴火です。貞観の噴火が大量の溶岩を噴出した噴火であったのに対し、宝永噴火は大量のスコリア（ここでは主に玄武岩質の黒い砂礫）を噴出する爆発的な噴火でした。最初に噴火した第三火口からは熱くて白い軽石が噴出しました。噴火が第二火口、第一火口へと移動するとともにスコリアを噴出する噴火に変わりました。この噴火で南側から東側の中腹の森は焼き尽くされ、南東斜面にはスコリアが厚く堆積しました。



幕岩上流の炭

最初に降り積った軽石の中に噴火前の森が埋まっています。昔、地元の人達がこの炭を掘り出して生活に使っていました。



御殿場口のスコリア

このあたりに積もったスコリアの厚さは5mにもなります。先駆植物のイタドリが砂礫の中に深く根を張っています。

火山荒原から森への遷移(せんい)

須走口では宝永噴火の影響が少なかった小富士側から森が再生してきました。幻の滝コースあたりのスコリア荒原には先駆植物（パイオニア植物）が進出しています。植物は雪崩による消滅と再生をくり返しながらい長い時間をかけて荒原から草原、さらに森へと移り変わってゆきます。

雪崩の跡に先駆植物が進出



①

植物の種類が増えて草原になる



②

草原とカラマツ（森林限界）

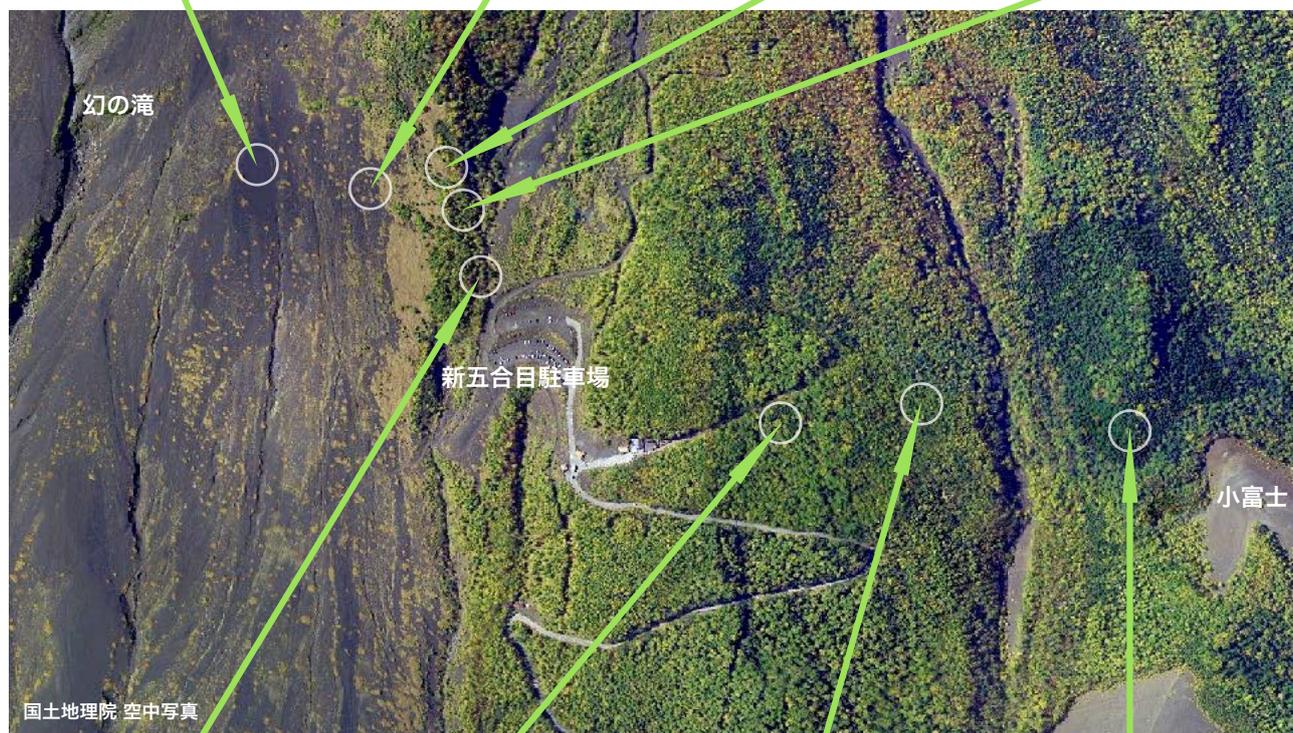


③

ダケカンバ（陽樹林）



④



国土地理院 空中写真



⑤



⑥



⑦



⑧

陽樹林とシラビソの幼木

陽樹が残る若いシラビソ林

安定したシラビソの森（陰樹林）

コメツガの森（陰樹林）

カラマツやダケカンバなどの陽樹の森ができると地面に射し込む光が少なくなります。すると光が少なくても成長することができるシラビソやコメツガなどの針葉樹が育ち始めます。光が足りないため陽樹は世代交代ができず、シラビソやコメツガなどの陰樹林に移り変わってゆきます。シラビソは世代交代を繰り返し、やがて植物の種類が変化しない安定した森になります。このような植生を極相植生（クライマックス）といいます。シラビソの森は富士山の亜高山帯の代表的な森のひとつです。

① スコリア荒原の先駆植物

須走口の斜面には数年から数十年ごとに雪代（スラッシュ雪崩）が発生する場所があります。ここでは雪崩が短い間隔で発生するため植物は大きな群落に成長することができません。オンタデやイタドリは上部から流されてきた根から芽を出しています。



雪崩の跡にはイタドリ、オンタデ、フジアザミなどが見られる



根から芽吹いたオンタデ



イタドリ



フジアザミ



フジハタザオ

② 植物群落の形成

雪崩が到達しない場所では砂が飛ばされるほどの強い風に耐えながら様々な植物が定着してゆきます。群落が形成され、その中に樹木のカラマツも育ち始めます。



コタヌキラン



植物群落



イワオウギ



ムラサキモメンヅル



ヤマホタルブクロ

写真の他にもミヤマオトコヨモギ、ヨモギ、キオン、イワニンジン、タカネノガリヤス、カリヤスモドキなどが見られます。

③ 草原と森林限界

植物群落が大きくなって一体になり広い草原が形成されています。地面が安定し、さらに別の植物も進出します。草原になる前に生育していたフジアザミやオンタデなどの先駆植物はもう見られません。カラマツ、ミヤマハンノキ、ミヤマヤナギ、ダケカンバなどの樹木が進出して森の形成が始まります。先頭のカラマツは強い風のため枝を風下側に伸ばしています。



草原と森林限界



カラマツソウ



テガタチドリ



ヤハズヒゴタイ



アオヤギソウ



クルマユリ



カリヤスモドキ



カラマツ (風衝樹形)



ミヤマハンノキ



ミヤマヤナギ

④ 陽樹林・ダケカンバとカラマツ

ここでは陽樹のダケカンバとカラマツを中心に陽樹林が形成されています。地面（林床）に射し込む光が足りないため陽樹の幼木は見られません。わずかに陰樹のシラビソが育ち始めています。草原では見られなかったコウモリソウ、キソチドリなどが生育しています。



ダケカンバ 斜面のダケカンバは深い雪のため下側に曲がっている



カラマツ



ヒメノガリヤス



コウモリソウ



イワノガリヤス



キオン



キソチドリ



シラビソの幼木

⑤～⑦ 陰樹林・シラビソの森

小富士遊歩道に入ると大きなダケカンバとカラマツの中にシラビソが成長している森になります。陽樹林から陰樹林に変わろうとしているところです。遊歩道の中ほどまで進むとシラビソの森になり、さらに進むと林床に幼木が密生して世代交代をしている極相林になりました。



ダケカンバ、カラマツ、シラビソの森



シラビソの森



林床に幼木が密生しているシラビソの森

⑧ 陰樹林・コメツガの森

小富士に近づくると古富士火山の地層が露出している場所に出ます。地面の地質が変わるとシラビソの森からコメツガの森になりました。



古富士火山の地層



コメツガの森

小富士遊歩道で見られる草花



須走口～小富士周辺で見られる生きものたち



ホシガラス



カヤクグリ



イワヒバリ



ビンズイ



ルリビタキ



ウグイス



小富士より 標高 1,970m



メボソムシクイ



ミソサザイ



コガラ



ヒガラ



ニホンカモシカ



ニホンジカ

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会
〒412-0006 静岡県御殿場市中畑1691-14
TEL 0550-89-6905 FAX0550-73-0434
ホームページ <http://hosigarasu.org>
Eメール info@hosigarasu.org